

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立江波小学校	校長氏名	保手濱 和益	生徒指導主事氏名	田村 康雄
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『小中合同地域ボランティア清掃』

取組のねらい『地域貢献・小中合同』

- ・ 地域のために貢献し、社会の一員としての自己有用感を味わう。
- ・ 中学生と合同で活動することで、中学校進学に向けての希望を持たせる。

取組の具体的内容『地域清掃』

12月4日（金）1・2校時、江波中学校2年生と6年生（計 152名）、地域の方々や6年生の保護者（約 50名）が一緒になって、江波山公園の清掃を行った。小学生・中学生と地域・保護者が6グループに分かれ作業した。大量の落ち葉と空き缶や空き瓶等の資源ごみで用意していたごみ袋（701）が200袋を超えた。



取組の課題・創意工夫『教科との関連づけ』

11月、6年生の国語科「ふるさとの良さをしょうかいしよう」では、改めて江波の良さを確認し、それをリーフレットにまとめ、親戚に手紙を送る学習活動を行った。

調べる段階で、地域の人や祖父母などに取材を行ったりインターネットや本などで確認したりした。江波山気象館やエバヤマザクラなどのそれぞれのグループの発表の際、「ふるさとを大切にしたい」、「江波の歴史を守りたい」などの感想が児童から出てきた。

その感想を広げて、江波山での小中合同の地域ボランティア清掃への取組に繋げた。

取組の成果（効果）『郷土愛』

中学生が中心となり、江波山の枯れ葉やごみなどの収集を行った。児童は、中学生や地域の方々と交流し清掃を行う中、ごみの多さにびっくりしたり、たくさんの方々により地域が守られていることに気づいたりした。児童の感想には、「自分たちにできることから始めたい」とあった。6年生の道徳の単元「小さい子からもらった幸せ」の導入で、地域ボランティア清掃での活動を振り返り、意欲付けを行った。自分たちの体験活動を導入部分で活用したので、積極的に発表することができ、これまでの自分を振り返り、今後の自分の行動を改めようとする発表や感想があった。



今後の展開『中1ギャップの解消』

11月、6年生はすでに小中部活交流に参加した。部活を教えてくれた中学校2年生は、6年生が中学校に進学した際に3年生の生徒である。2月には、中学校の先生方による授業体験が計画されている。



他校へのアドバイス『系統性』

中学生と小学校6年生の交流は、どの学校でも行われている。他教科との関連性を持たせることを意図することによって、より効果が上がると考える。